
あの日に帰りたい

サウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日に帰りたい

【Nコード】

N6324M

【作者名】

サウス

【あらすじ】

病気で長く付き合った彼女とも別れた私は、自分が一番輝いていた、あの時代へタイムスリップする・・

第一章 第一話（前書き）

誰でも一度はあの日に帰ってやり直せたらと思ったことはあるはず。今は脳の病気の後遺症で車椅子生活を送っている私は尚更です。そんな思いを小説にしました。

第一章 第一話

もう、こんなヤツとは別れた方がいいよ。」「私は8年付き合った彼女とこの一言で関係を終わらせた。私は今年44才になる。脳の病を患い、一年前から車椅子生活だ。彼女への未練はたっぷりあるが、彼女の将来を考えたら、遅すぎた別れだった。

しかし、何故、こんな身体になってしまったんだろう。8年前のあの日に帰りたい。やり直したい。と激しく嗚咽しながら、枕を涙で濡らしながら、眠りに落ちた。

ムツとする草いきれの匂いが鼻について、私は目を覚ました。目を開けると、川の土手に寝転んでいた。目の前には幅が結構ある川が静かに流れていた。どこか懐かしい風景だった。ここはどこだろう。何故、私はこんなところにいるのだろう。

病院のベッドで寝ているはずなのに。混乱した私の耳元に懐かしい声が聞こえてきた。「待つてくれよ。」「高校時代に一番仲良かった俊ちゃんの声だった。私は土手をかけあがり、土手の上の道路に立った。そこは高校時代の通学路だった。そして学生服姿の俊ちゃんともう一人の学生が自転車で走り過ぎていった。」「どういうことだ。」「私は呟いた。

あの日に帰りたい第一章第二話（前書き）

車椅子生活でリハビリ病院に入院しているはずの私は、見知らぬ世界に滑り落ちた。ここはどこなのだろうか？

あの日に帰りたい第一章第二話

自転車が過ぎていった後を私は呆然と立ち尽くしながら、呟いていた。自転車の後ろ姿は間違いなく、高校時代の私だった。ようやく、中学時代の坊主頭から髪が伸びて、少し色気づいてきた頃の私だった。混乱したまま、土手に腰を下ろすと、かたわらにスポーツ新聞が落ちていた。スポーツ新聞らしく、夏の高校野球県大会の出場高校の特集だった。そして、芸能記事を読むと、今や芸能界の重鎮のアイドル時代の写真記事が載っていた。しかし、良く記事を読むと、すべての文章が現在形だった。私は新聞の日付を確認して、激しい衝撃を受けた。そこには昭和56（1981）年7月18日と記されていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6324m/>

あの日に帰りたい

2010年10月10日14時55分発行